

令和7年11月26日  
交流文化 部

## 1 策定の背景

令和3年、「福井県長期ビジョン」を踏まえ、福井県の多文化共生社会づくりに関する基本的な考え方および施策の方向性を示す「福井県多文化共生推進プラン」を策定した。以降、県内では外国人住民の増加や多様化が進み、受入れ支援のみならず、地域への定着やそれぞれのライフステージに応じた施策を一層推進していく必要性が生じている。こうした社会の変化や課題に対応するため、第2次プランを策定する。

## 2 関連する計画

### ◆総務省「地域における多文化共生推進プラン（改訂版）」（令和2年）

- 外国人も日本人とともに地域社会の一員として安心して暮らせる共生社会の実現を目指す指針
- 地方自治体が、生活支援や日本語・情報提供の充実、社会参加の促進、地域活性化の推進など、多文化共生に関する施策を計画的に進めるための基本的な考え方や具体的な方向性を示したもの。

### ◆「福井県長期ビジョン（改訂版）」（令和7年）

理念：「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！

目標：しあわせ先進モデル 活力人口100万人ふくい

将来像（2040年）：「自信と誇りのふくい」「誰もが主役のふくい（※）」「飛躍するふくい」

※多様な個性を大事にし、みんなが自分らしく輝く

## 3 計画期間

令和8年度～12年度（5年間）

## 4 県民アンケート結果

- 調査期間：令和7年8月15日～9月15日
- 対象

日本人（県内在住の満18歳以上の男女：人口分布および県内年齢構成に基づく）

配布数 1,000 回収数 406 回収率 40.6%

外国人（県内在住の満18歳以上の男女：特別永住者を除く）

広く配付 回収数 1,163 回収率 -

### アンケート結果・前回との比較

- 日本人は、「多文化共生」の認知度は大幅に向上した（41%⇒69%）。また、人口減少・労働不足の解決策として受入れに肯定的な意見もあった。
- 外国人は、福井県に今後も住み続けたい人が76%、暮らしに対して満足している人は80%との回答であった。地域に溶け込むため地元のお祭りや日本を体験できるイベントなどに参加したいとの希望がみられた。  
⇒ 日本人・外国人お互いがお互いを知ることが重要であり、そのための接点や機会を創出することが必要

## 5 本県の外国人住民の現状と今後の取り組み

	策定時（令和2年12月末）	比較	現在（令和6年12月末）
外国人住民数	15,713人	3,409人増 外国人住民数は1.2倍に	19,122人
外国人住民数の割合	2.06%	0.53ポイント増	2.59%
国籍・地域数	74か国・地域	13か国・地域増 出身国籍・地域の多様化が進み、近年は東南アジア出身者が増加	87か国・地域
国籍別順位上位5か国	ブラジル：4,182人 ベトナム：3,069人 中国：2,680人 韓国・朝鮮：2,219人 フィリピン：1,646人	上位2か国は変わらず。 フィリピンが増加。 韓国・朝鮮、中国は減少。	ブラジル：4,504人 ベトナム：3,896人 フィリピン：2,306人 韓国・朝鮮：1,949人 中国：1,944人
在留資格別上位3資格	技能実習：4,384人 永住者：3,874人 定住者：2,699人	順位は変わらず。 技能実習が増加。 定住者は横ばい。	技能実習：5,009人 永住者：4,166人 定住者：2,696人

（福井県「福井県の外国人住民数」）

## 福井県に暮らす外国人の今後について

### 多国籍化

様々な言語・文化背景を持つ人々が暮らしており、今後さらに国籍や文化の多様化が進んでいく。

### 幅広い世代

働き世代に加え、子どもや高齢世代も増え、より一層、子育てや教育、介護を含めた対応が必要となる。

### 目的の多様化

「一時的な労働者」としてではなく、滞在目的に沿って定住化が進み、地域社会の一員としての役割が求められる。

【新たな視点】ライフステージに沿った施策の展開が必要

## 6 基本理念・目指す姿

### 日本人も外国人も、ともに支え合う福井の未来

- ◆ 日本人も外国人も安心と安全を享受でき、誰もが取り残されない社会
- ◆ 多様な文化が交流し支え合いながら、一人ひとりが担い手として役割と愛着を感じられる社会
- ◆ 外国人材と国際感覚を備えた人材が地域に根づき、持続的で活力ある社会

# 第2次福井県多文化共生推進プラン（骨子案）

## 日本人も外国人も、ともに支え合う福井の未来

日本人も外国人も安心と安全を享受でき、誰もが取り残されない社会

### I 安心共生スキーム

多様な文化が交流し支え合いながら、一人ひとりが担い手として役割と愛着を感じられる社会

### II 活躍共生スキーム

外国人材と国際感覚を備えた人材が地域に根つき、持続的で活力ある社会

### III 国際化スキーム

#### 【課題】

【外国人材受入】  
受入れにかかるコストや制度、待遇面の課題により人材が定着しにくい。

【グローバル化】  
外国人との交流・イベント、海外渡航や留学などの機会や国際経験が少ない。

【インバウンド】  
外国人旅行者の受入にあたって観光事業者の意識醸成や、言語、宗教、文化などの背景を踏まえた対応が必要。

【日本語教育】  
学習ニーズに応じた日本語教育が行われておらず、学習機会に地域差がみられる。また、日本語学習支援者等の育成も大切。

【地域交流・相互理解】  
日本人住民と外国人住民との交流・対話の機会が限定的。また、多文化共生に関わる団体や個人が少ない。

【防災】  
市町の外国人被災者への災害支援体制が十分に整っていない。

【医療・保健・福祉】  
病院等の受入体制にばらつきがみられる。また、外国人の多世代化が進む中、妊娠・出産・子育て・介護への十分な対応ができていない。

【教育】  
外国にルーツのある児童生徒の受入れに対する理解や教育・進学支援等が十分ではなく、学習支援や日本語指導を行う人員も不足している。

【相談】  
外国人相談体制の関係機関との連携が不十分であり、相談窓口の更なる周知が必要。

## ふくい多文化共生モデル

### III 国際化スキーム

外国人材の受入れによる人口増加と多文化共生の関係人口を増やす仕組み



### II 活躍共生スキーム

一人ひとりが地域の担い手として活躍し、福井への愛着が湧く仕組み



やさしいにほんご

### I 安心共生スキーム

誰もが必要なサポートを受けることができ、安心・安全を届ける仕組み



#### 【新たな視点】 ライフステージに沿った施策の展開

#### 外国人材受入定着・グローバル化

##### ◎ 外国人材の受入れ

外国人材が長期的に活躍できる環境を整備し、受入・定着を促進します。

##### ◎ 次世代の国際意識の醸成によるグローバル化への対応

海外留学や教育交流等を促進させ、世界から福井に呼び込む、世界に羽ばたく、国際的な視野をもった人材を育成します。

##### ◎ 訪日外国人（インバウンド）受入れによる国際化の推進

多様な宗教的、文化的習慣を有する旅行者が快適に福井を旅行できるようにします。

#### コミュニケーション支援・地域交流・地域参画

##### ◎ 地域日本語教育の総合的な体制づくり

県全域での日本語教育の推進体制を構築し、外国人住民のニーズやレベルに応じて、身近で日本語が学習できる環境を整えます。

##### ◎ 地域交流・相互理解の促進

外国人住民の地域行事やイベントへの参加を促進し、日本人住民との交流や対話の機会を創出し、地域の担い手として活躍してもらえるようにします。

#### 多文化共生インフラの整備

##### ◎ 防災等安全対策に関する取り組み

災害時の外国人被災者への情報提供支援を行う災害多言語支援センターの体制強化と各市町での設置を推進します。

##### ◎ 医療・保健・福祉サービスの利用環境の整備

電話医療通訳サービスの導入などを通じて、外国人住民が安心して必要なサービスを受けられる環境を整えていきます。

##### ◎ 外国にルーツのある児童・生徒等に対する支援の充実

支援員やIT機材を活用し、日本における生活の基礎を身に付け、その能力を伸ばし、未来を切り開けるようにします。

##### ◎ 外国人相談における体制の強化

母国語によるプッシュ型の情報発信から、相談者への同行支援まで、一貫した相談体制を整備します。